仙台市博物館協議会（令和5年度第1回）会議録

1．会議の年月日　　令和5年5月30日（火）

2．開会及び閉会の時刻　　午後1時30分から午後3時00分まで

3．出席委員の氏名（五十音順・敬称略）
　尾崎彰宏、齋藤敦子、佐藤憲子、髙橋卓誠、伊達泰宗、長岡龍作、森美智子
　※籠橋俊光、鹿又喜隆委員はオンラインでの出席。佐治ゆかり委員は欠席。

4．説明者の職及び氏名
　館長＝今井吏、副館長＝樋口智之、庶務係長＝村上明日香、学芸企画室長＝酒井昌一郎、
　学芸普及室長＝水野沙織、指導主事＝村上聡
　学芸企画室主任・記録＝菅原美咲

5．議題及び報告並びに議事の要旨
（1）会議録署名委員の選任
　会長と髙橋委員とする。

（2）報告事項
①大規模改修工事について（庶務係長報告）
「資料 1」のとおり。
②令和5年度事業計画について
ⅰ展示・公開（学芸企画室長報告）
「資料 2」のとおり。
ⅱ教育・普及事業　（学芸普及室長報告）
「資料3」のとおり。

〔委員からの意見〕
県美術館での展覧会では美術品として歴史資料を展示することがよくできていた。入館者数が伸びないことについて、緑化フェアに来場する人を美術館に誘導するという工夫はしたのか。解説・展示方法・ライティングなどを工夫することで美術品として展示する点は成功しているので広報の仕方をもっと工夫すべきではないか。あわせて具足のレプリカ展示についても緑彩館での見せ方を考えたほうがよいのではないか。
〔事務局からの回答〕
地下鉄車両・駅へのポスター掲示、一般雑誌への掲載等の通常広報に加え、追廻会場から美術館への導線への案内強化、報道機関への働きかけによるテレビ放映などを行ったが、来館者増加の結果にはいたっていない。県美術館での初開催のため、広報戦略を含めより工夫すべき点があった。
〔委員からの意見〕
見学したときは来館者がたくさんいた。美術作品として空間を広く余裕をもって展示し、内容も見栄えもよい。

通常の美術館展示では展示室内に映像があるが、今回は展示会場の外に映像があった。特別展の会場内で映像を流したほうが展示をより深く理解できる。
また、展覧会タイトルを工夫しないと、平凡なタイトルだといつもと同じという印象になり、一般市民の関心をひきつけにくい。
政宗騎馬像の修復に関連して、仙台城の像、初代の胸像、仙台駅にある騎馬像などいろいろなものがあり、仙台の歴史にとって重要である。博物館でも積極的に講座などを通じてその成り立ちや制作・修復過程、現在残っている像など、一般向けに広くわかりやすく伝える取り組みをしてもよいのではないか。
〔事務局からの回答〕
彫刻の意義を現代へのつながりも含めて伝えていくことは重要だと思うので検討していきたい。
美術館での展示は1点1点を大事に扱うことで作品の魅力をより引き立てることができた。
また、今回の展覧会では美術館と博物館の学芸員が一緒に展示作業をし、様々な交流することができたことも重要な成果であり、今後も継続していきたいと思う。
〔委員からの意見〕
広報について、単館ではなく、例えば東北歴史博物館で開催している仏像の展覧会、瑞巌寺宝物館での絵画の展覧会なども含めて、市や県の枠に限らずにお互いに連携して広報していくという視点も大事ではないか。
〔事務局からの回答〕
現状では市内のミュージアム関連施設を中心とした SMMA という連携はあるが、自治体を越えたつながりがないため、まずはつながりがある東北歴史博物館などから連携を図っていきたいと思う。
〔委員からの意見〕
文化観光局などとの連携はしたか。緑化フェアの目標来場者 100 万人のうちの何割かを展覧会に誘導するということを想定したと思うが、想定来館者はどのくらいか。
〔事務局からの回答〕
県外からの観光客や教育旅行での来仙者などを含め3万人の来場を目指し、文化観光局とも相談しながら行っていたが目標値に達していない。
〔委員からの意見〕
他局との連携だけでなく、市民・県外の方の目線でみれば来場したくなるようなインパクトのある工夫、見たことがあると思わせないインパクトのあるテーマも検討してほしかった。例えば他の武将も入れるなどの取り組みなど、市民目線で広く政宗のファンを増やしていく工夫も今後必要だと思う。
〔委員からの意見〕
所蔵資料のデジタル化について、今年度 1500 件とした数字の根拠は何か。今後も増やす可能性があるか。
〔事務局からの回答〕
重要文化財に指定された伊達家文書の指定件数 1300 件に館の名品等を加えた件数の公開を想定している。今後も順次増やしていきたい。
〔委員からの意見〕
デジタル化は2年以上前から議会でも提案していた件で、具体的に進んでいることはよいと思う。今後もデジタル化を推進してほしい。
〔委員からの意見〕
タイトルを魅力的にすることは重要だと思う。マーケティングも考えたほうがよい。
広報の部分は戦略が必要で、数値化できないと評価できないという流れで実績をださないといけない面がある。

〔委員からの意見〕
リニューアルについて、工事の計画は書いてあるが、事業の面で具体的な内容が書かれていない。リニューアルによって何が新しくなり、何をみせたいか、どのようにアピールしていくかなどの戦略が見えていないが、どのような計画か。
〔事務局からの回答〕
次の協議会では資料をもとに具体的に示す予定だが、現状報告できる内容はデジタル化の推進、展示室関係については、企画展示室・テーマ展示室Ⅰ・Ⅱを高透過ガラスおよび LED 照明にする。レストラン・ミュージアムショップには新しい業者を募集する予定で進んでいる。エントランスホールやロビーの照明を明るくして親しみやすい空間づくりを意識して進んでいる。
また、青葉山川内一体については、自然と歴史が共存する重要な場所として市の施策としても整備検討が進んでいるが、博物館はその中心施設の一つとして、自然と文化歴史が共存する場所であることを大切にした取り組みを強化すべきと考えている。具体的には博物館でのツイッターやホームページなどでも博物館周辺の自然を紹介することに力をいれている。また、改修後の博物館ではガラス張りのロビーを緑の見える憩いの空間にできるように考えている。
展示の内容については、常設展示室は大きな変更はないが、これまでの通史を基本に最新の成果を取り入れた展示を検討している。
〔委員からの意見〕
リニューアルして来場してもらうために何かアピールできるような宣伝文句をつけて進めるとよい。
〔委員からの意見〕
箱の中の資料だけで博物館だとは語れず、周辺の自然環境も含めて次世代に残すべきものという意識でいなければならない。リニューアル後の変化について、ガラスの違いや光の違いなどを従来の改修前後を比較展示して分かりやすく伝える努力をすべきである。
〔事務局からの回答〕
リニューアル感をどのように伝えていくかは重要な点だと考えている。改修工事の主になる空調設備の変化は伝えにくい部分もあるので、わかりやすいガラスやライトによる変化を積極的に実例で伝えていきたい。
〔委員からの意見〕
民間の方の知恵も活用しながら、わかりやすくインパクトのあるものにしてほしい。
〔委員からの意見〕
この協議会は批判や称賛のために集まっているだけの場ではなく、様々な意見を取り入れ、館に生かしていく場である。内部で決めるのではなくて、企画を開いて、意見を取り入れ、変わっていける姿勢でいないといけない。協議会の段階ではすでに事業の修正がしにくい段階まで進んでいるので、よりよくできるように知恵を生かせるとよい。
〔事務局からの回答〕
開かれた博物館をより意識しながら進めたい。特に今年度の館の目標にかかげた「ユーザー目線」の視点を今まで以上に意識しながら取り組んでいきたい。
〔委員からの意見〕
従来は博物館活動について協議会がお墨付きを与えるという体制だったが、今後は協議会を積極的に活用し、もっと思い切ったことをやればよい。
〔委員からの意見〕

情報発信の点からツイッターで意見を募るなどの活用をし、仙台市を担う若者の視点を取り入れ、裾野を広げていく必要がある。
〔委員からの意見〕
市民に限らず、県外にも関心のある人がいるので SNS 等での意見を積極的に取り入れる企画などに挑戦してもよいのではないか。
ビジュアル的な見せ方に反応する層に情報が届く工夫をし、実際に現地で撮れる場をつくってあげれば自然と拡散していくので、関心のある層への広報も重要である。
〔事務局からの意見〕
現在の展示でも刀剣など、関心のある層で話題になっている部分もある。そういった面での活用も今後より強化していきたい。
〔委員からの意見〕
展覧会の広報戦略は外注しているのか。ブックデザインと同様で、広報は専門家に委託し、お金をかけないとむずかしいと思う。予算獲得の面でも協議会委員の意見を活用できるとよいのではないか。
〔委員からの意見〕
たくさんの人を入れるためにはどうするかというノウハウがある。広報費に大きな費用を使い、入館者につなげるために母集団を広げる必要がある。一方で SNS の拡散効果を狙うために、撮影できるスポットなどを用意するのもよい、発想を変える必要がある。資料を扱う責任はあくまで館の学芸員にあるが資料を管理するという以外の知恵は協議会委員を活用してもらいたい。
〔委員からの意見〕
一つの事業について広報費はどのくらいかけているのか。
〔事務局〕
事業毎に予算をつけるが展覧会事業全体の総額に目安があり、輸送や会場設営費など全体の配分の中で決めている。また自主企画と実行委員会形式の特別展でも大きく異なってくる。
〔委員からの意見〕
広報の裾野を広げるという意味では、いろいろな媒体での広報はもちろん、館の三の丸会や友の会などへの協力やキャンパスメンバーなどの学生へ広報を協力してもらうなどの手段も考えられると思う。
〔委員からの意見〕
リニューアルまでの期待感を醸成させるような取り組みを始めていく必要がある。例えば看板やツイッター等で開館まであと○日などの広報は今から行う必要がある。
〔委員からの意見〕
9月には次年度の予算作成が始まるが、リニューアル後の博物館をアピールするため、従来の枠におさまらずに戦略をねってほしい。
〔委員からの意見〕
協議会が単なる承認の場ではなく、協議の場となるようにしたほうがよい。次の協議会が1月では遅いのではないか。
〔委員からの意見〕
臨時協議会をしてはどうか。事務局で検討してもらいたい。
〔委員からの意見〕
リニューアルはイベントとしてやる必要がある。文化は刺身のつまという人もいるかもしれないが不可欠のもので

ある。文化を浸透させるための責任が博物館にはある。予算内に収めるやり方をしていては永遠に変わらないので、リニューアルを機にかわる契機をつくってほしい。

③仙台市博物館条例の一部改正について（庶務係長報告）
「資料4」のとおり。

（3）その他